

項目	観点	内容の特色
内容の選択・程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 学習指導要領の教科の目標を達成するため必要な教材が適切に用意されているか。</li> <li>* 基礎的・基本的事項の理解や習得のため適切な配慮がなされているか。</li> <li>* 発展的な学習内容の取り扱いに対する適切な配慮がなされているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 基礎的・基本的な事項がコンパクトに網羅されている。また、例・例題と問のギャップをなくし、スムーズに授業が展開できるように工夫して編集されている。</li> <li>● 本文の問の末尾に節末問題と章末問題へのリンクマークが付され、追加問題が扱いやすくなるよう工夫されている。</li> <li>● 「1章 数列」では、等差数列と等比数列について、一般項や和の公式の導出、例題の解答などにおいて、可能な限り記述が統一され、加法的に定義される等差数列と、乗法的に定義される等比数列の、共通点と相違点が明確になるよう配慮されている。(p. 8-22)</li> <li>● 「1章 数列」の導入では「曜日」、等差数列の導入では「割り算の余り」、等比数列の導入では「位取りの単位」が取り上げられるなど、具体例や身近な事柄で導入されるよう配慮されている。また、「複利法」や「漸化式の応用」(場合の数への応用)、「等差数列の和と等比数列の和の増加の仕方の違い」(小遣いの金額の総額)が取り上げられるなど、本章で学ぶ事柄がさまざまな場面に応用できることを実感できるよう配慮されている。(p. 8, 10, 13, 16, 18, 28, 35, 36, 38, 40, 45, 121)</li> <li>● 「2章 統計的な推測」では、離散分布から連続分布への接続や、二項分布の正規分布による近似、中心極限定理、大数の法則など、区間を連続的に小さくしたり、<math>n</math>を連続的に大きくしたりしたときの変化が、視覚的に捉えやすいアニメーションのQRコンテンツが充実している。(2章 全体)</li> <li>● 「2章 統計的な推測」の「仮説検定」では、現代の統計ソフトでは標準的な「有意確率」と、区間推定との接続を意識した「棄却域」の両方が扱われ、大学以降での実践的な統計の準備と、区間推定からのスムーズな理解が両立できるよう配慮されている。(p. 93-97)</li> <li>● 「3章 数学と社会生活」では、各項でそれぞれ独立した問題解決の手法が扱われ、項の順序を変えて指導することや、一部の項を抜粋して指導することもできるよう配慮されている。(3章 全体)</li> </ul>
組織・配列・分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 内容の組織・配列は、学習指導を有効に進められるように考慮されているか。</li> <li>* 分量は学習指導を有効に進められるように考慮され、精選されているか。</li> <li>* 中高の接続に対する配慮がなされているか。</li> <li>* 弾力的な取り扱いに対する配慮がなされているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学習指導要領に示された「内容」と「内容の取扱い」に準拠していて、生徒の実態に即した必要かつ十分な内容が適切に組織・配列されている。</li> <li>● 例・例題→問→節末問題→章末問題の順に、段階を追って一定レベルの問題が過不足なく取り上げられており、その分量も適切である。</li> <li>● 章のはじめに既習事項を復習するコーナーがあり、関連した中学校・数学I・数学Aの内容を振り返ることができるよう、工夫されている。</li> <li>● 難易度の高い例題は、「Challenge 例題」として掲載され、学習進度に合わせて扱えるように配慮されている。</li> </ul>

項目	観点	内容の特色
表記・表現及び指導に対する工夫や配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 学習意欲を高めるための配慮がなされているか。</li> <li>* 用語・記号の取り上げ方や記述のしかたは適切か。</li> <li>* 生徒の自学自習への配慮や工夫がなされているか。</li> <li>* 指導書や周辺教材での工夫や配慮がなされているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 全編を通して本文の理解を助けるように、イラスト、写真、図が適切に用いられている。</li> <li>● 必要に応じて色を使い、視覚的な内容理解ができるよう配慮されている。</li> <li>● 用語・記号は統一されており、記述の仕方も適切である。</li> <li>● 節末問題に教科書本文の対応ページが付されており、振り返り学習ができるよう工夫されている。</li> <li>● 教科書を支援する指導書や周辺教材などが充実しており、指導しやすい教科書である。</li> <li>● ICT機器を利用すると効果的な箇所にQRコンテンツが用意されており、生徒が柔軟に学習を進めることができるように配慮されている。</li> </ul>
印刷・造本上の配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 印刷の鮮明さ、活字の大きさ、行間、製本などは適切か。</li> <li>* 環境保全や生徒の多様な特性に配慮がなされているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 活字はユニバーサルデザインで美しく、写真、挿し絵も鮮明で効果的である。</li> <li>● 製本は堅牢で、開きやすい様式である。</li> <li>● 図やグラフの色使いなど、色覚特性への配慮を含むユニバーサルデザインとなっており、全ページにわたって配色を工夫するなど、だれも見やすい紙面になっている。</li> <li>● 本文の用紙には再生紙と植物油インキを使用し、印刷業界団体が定めた環境配慮基準を満たす「グリーンプリンティング設定工場」で印刷するなど、地球環境や資源に及ぼす影響も考慮されている。</li> </ul>
総合所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 上記観点から見た、全体的・総合的な当教科書の特徴</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 教科目標達成に必要な学習事項・定番問題がコンパクトに網羅されていること、学習内容を表す小見出しを多用した内容のまとまりのよさ、具体例からの導入、内容理解を高めるための図解・色を使った説明など、生徒および指導者にとって効率的に学習効果があげられるように編集された教科書である。また、数学の楽しさが体感できるようにも工夫されている。</li> </ul>

この資料は、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則っております。